

# 旬花報

22号

令和6年3月31日

発行  
群馬県立女子大学  
同窓会事務局

〒370-1193  
佐波郡玉村町上之手 1395-1  
TEL: 0270-65-8511  
URL: <https://shiou-kai.com/>



同窓会長  
野村 留美子

同窓生のみならず、お変わりありませんか。

同窓会の紫桜会では、新型コロナウイルス感染症の影響でやむなく中止せざるを得なかった通常の活動を、状況を考慮しながら少しずつ再開しているところです。

同窓会誌『旬花報』のお届けも二十二号目となりました。

今回は、去る令和五年十月一日に新たに就任された塩澤寛樹学長より、ご挨拶をお寄せいただきましたので、ご紹介いたします。

## 新学長紹介



塩澤 寛樹 学長

小林良江前学長の後を承け、本年度の十月より新学長に就任いたしました。小林前学長をはじめ、歴代の学長が築かれたものを継承しながら、本学をよりよい大学に発展させるために全力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

野村留美子同窓会長、そして同窓会の皆様には紫桜賞表彰や各種学生生活支援事業をはじめ、日頃から本学の教育並びに学生活動に対しまして、多大なるご理解と温かいご支援を賜りまして、心より御礼申し上げます。

本学は、一九八〇年に開学してから今年で四十三年を迎えております。開学当時と比べますと、日本社会や世界の状況は劇的に変化してきました。この間、大学進学率は倍増しましたが、一方で十八歳人口は減少の一途を辿っております。九〇年代にはバブルが崩壊し、その後の失われた二十年または三十年ともいわれる時期を経してきました。世界に目を向ければ、開学時の冷戦構造は崩壊したものの、新たな対立構造や国際紛争、地球温暖化に伴う急激な環境変化、未知の感染症によるパンデミック、予想を上回るAIの進化など、挙げれば枚挙に暇がありません。こうしたことを背景に、これからの社会は変化が激しく、予測困難な時代（VUCAの時代）であることよく指摘されています。これらの社会変動に対応するべく、人材育成の重要性、人への投資の必要性が従来

にも増して指摘され、高等教育に対しては、基礎学力や各種リテラシーに加えて、論理的思考力、自ら課題を発見し解決する力、未来を創造し構築する力、意欲や忍耐力または協調性や人間性といった非認知能力などがよく要望に挙げられています。また、特定分野に限定されない文理融合の教育またはSTEM教育（Science、Technology、Engineering、Art、Mathematics）の重視も説かれています。

本学でも、すでに教育内容のレベルにおいては他にひけは取らないものと考えていますし、様々な取り組みもなされていますので、現状において解体的再建が必要なのではありません。とはいえ、文理融合教育の充実や非認知能力のさらなる向上など、一段と高度な教育を提供すべく努めてゆかなくてはなりません。

少人数制の公立大学という本学の強みを生かしながら、新たな時代に対応できる人材育成を目指すことは、開学当初のスローガンである「社会的に自立した光り輝く女性の育成」につながると考えています。より一層魅力ある大学を目指して、教職員が丸となって取り組んで参りたいと考えています。今後ともお力添えを賜りますようお願いを申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。



本学開学記念樹「ユリノキ」

## 学長プロフィール

しおざわ ひろき  
塩澤 寛樹 学長

令和五年十月一日に学長就任。

専門分野は、日本美術史、日本彫刻史。鎌倉時代を中心とする中世の彫刻史や、幕末・近代の彫刻史を研究。

名古屋出身 神奈川県在住

一九八二年 慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業

学位 一〇〇七年 博士(美学)(慶應義塾大学)

一九八二年 神奈川県立博物館学芸部学芸員

二〇〇〇年 日本橋学館大学専任講師

二〇一二年 日本橋学館大学副学長

二〇一四年 群馬県立女子大学文学部美学美術史学科教授

### 主要著書

『鎌倉時代造像論 幕府と仏師』(二〇〇九年)

『鎌倉大仏の謎』(二〇一〇年)

『仏師たちの南都復興―鎌倉時代彫刻史を見なおす』(二〇一六年)(以上、吉川弘文館)

『大仏師運慶―工房と発願主として「写真」とは』(二〇二〇年、講談社) など。

二〇二二年度NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』仏教美術考証を担当。

# 紫桜賞

## 美学美術史学科

### 絵画ゼミ四年生一同

絵画ゼミ四年生九名は、富士スバル株式会社との産学連携事業により、富士スバル高崎店に設置された野外展示スペースの壁画デザインを行いました。

群馬県及び高崎市との地域共生をテーマとしたこの壁画デザインプロジェクトは、一年半以上の企画、制作、打合せを経て、令和六年一月に設置が完了しました。

高さ三メートル、幅二十メートルのこの巨大な壁画には、群馬県と高崎市、そして富士スバルを代表するモチーフが描かれ、地域の魅力を幅広い世代に存分にアピールしています。



〈群馬のモチーフ〉ヤマドリ、レンゲツツジ、クロマツ  
〈高崎市のモチーフ〉高崎パスタ、ダルマ、白衣観音、榛名山・榛名湖とその紅葉  
〈富士スバルのモチーフ〉飛行機、スクーター、自動車(スバル360)

## 余暇の過ごし方

日常に追われている中で、ほっとできるひととき。同窓生の皆さんがどのように過ごしているのか、聞いてみました。

### 山登り

まずは低山から。月1回を目標に登っています。退職してから趣味を見つけるのでは遅いとアドバイスをいただいたので。(50代 H)



### 日帰り温泉

(40代 K)



### 美術館&博物館巡り

太田市美術館&図書館や館林美術館。ちょっと行くのにいいですよ。オススメ!!

### ヨガ



### お花の世話

ガーデニングまではいかないですが。(60代 N)

### 家の断捨離・乗馬

乗馬はたまに行く程なので、なかなか上達しません。時代劇で馬を操っている俳優さん達を尊敬します。(50代 T)

### 歌舞伎の観劇

コロナが少し落ち着いたので、足を運べるようになりました。初めてスーパー歌舞伎も観ましたが異空間で圧倒されました。(30代 M)

## 編集後記

二〇二三年の学園祭では二〇一九年以来、久しぶりに同窓会カフェが行われました。

百六十人強のお客様に来ていただき、盛況のうち終了することができました。二〇二四年は大きな地震と共に幕が明けました。同窓会や学生の皆さんの中にも北陸在住や出身の方もたくさんいらつしやると思います。

寒い時期の地震、ライフラインの断絶など、生活自体も大変だったと推測いたします。一日も早く通常の生活に戻れるよう、お祈りしております。

